

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500782		
法人名	社会福祉法人 寿泉会		
事業所名	八幡園グループホーム		
所在地	三重県津市津興2947番地		
自己評価作成日	令和 元年 11月 15日	評価結果市町提出日	令和2年1月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2470500782-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2470500782-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 元年 12月 5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事を月に3回企画し、利用者様の楽しみとなっている。また散歩も近隣にスーパーやお地藏様、神社や学校などあり、色々な場面で目的地となり楽しみとなっている。日々ゆったりと過ごす中で家族のような温かい関係性を築けている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津市国道23号線、津中心部から松坂方面に向かい、幹線道路から住宅地に入った場所にある。1階が通所介護、2階にグループホームの2階建ての建物である。敷地内には津中部東地域包括支援センターが併設している。自治会長や民生委員の協力で地域の行事に参加する機会もあり、ホーム内でも時節に応じた行事を取り入れて多彩である。運営推進会議に市担当者・地域包括支援センター職員が出席して、自治会長や民生委員から地域での困りごと、また防災など身近な問題が議題に上がり、コミュニケーションが図られている。近くにお地藏さんが祀られ、そこは利用者にとっても心のよりどころでもあり、散歩の折々には手を合わせている。手作りの暑中見舞いのはがきと年賀状を出す支援が継続している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員がグループホームの理念を共有して実践している。また、事務所内に掲示し、常に確認・意識できるようにしている。	理念は大黒柱であり、助けになるものであると考え、利用者に寄り添い、一緒に歌を歌ったり、好きなことをしてもらって、穏やかな生活をするように支援・実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏には自治会の盆踊りに参加している。また日常的に買い物や散歩を通じて挨拶など、地域の方と交流もしている。	自治会長や民生委員から盆踊りの誘いをうけて、参加している。盆踊りとなると、利用者は踊りの練習を重ねてその日を待っている。月1回、日曜日に階下の通所介護の場所で地域に開放したサロンが開かれ、野菜や飾り物やかき氷などの販売もあり、利用者も行くのが楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の機会を持ち、認知症の方について理解を深めて頂けるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を開催し日々の取り組みや行事を報告し家族からの意見や提案をもとにサービスの向上に努めている。	市担当者と地域包括支援センターの職員と一緒に参加しており、家族の参加も多い。自治会長・民生委員の地域代表者とお互いのコミュニケーションが取れる機会でもあり、事業所の活動報告とともに情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域包括支援センターへの相談など、地域の情報が共有できる関係が築けるようにしている。	介護保険の更新手続きやわからないことがあれば、その都度、市役所へ出向くなり電話で相談し助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けてのケアについて掲示しており、定例会議でもケースを検討し身体拘束に該当しないか話し合い自己啓発している。	会議の場で拘束について学ぶ機会をもうけている。転倒など心配な利用者には、靴とベツ脇に鈴をつけて動きがわかるようにしている。	身体拘束適正委員会、決められた研修を実施し、記録するよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で意見交換を行いお互いが見過ごすことのないようにしている。会議などで声掛けや対応についても検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設している包括支援センターで権利擁護についての質問や相談ができ活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に契約内容や料金を分かり易く説明を行い、不安や疑問点等にも納得されるまで対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からコミュニケーションをしっかりと取り良い関係性を築けるようにし、意見の言いやすい環境を作っている。家族からの意見は職員で協議し反映している。	家族へ運営推進会議や行事の参加案内をしている。推進会議は多数の家族が参加しており、意見表出の場になっている。いつでも言いやすい雰囲気作りに努めている。家族へは、写真入りのたよりを送り、来訪の時には写真を見ながら利用者の様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や申し送りで、意見や提案を出せるようにしている。また、日々の中で気がついた事などは記録に書き留めその都度ケア内容は検討している。	会議や日々の申し送りで管理者に話をしている。利用者の転倒予防に、靴やベット脇に鈴をつける動きがわかるので、鈴つけを職員から提案された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力を理解しお互いが協力し向上心を持って働ける環境が作れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内外の研修を取り入れ、研修に参加できる機会を設けケアの力量アップに繋げている。また、資格試験への法人としての援助も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内外の研修を通じて交流の機会を作り、意見交換や情報交換の場を作り、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークやアセスメントの際に困りごとや不安な気持ちを聞き取り傾聴、共感し、安心感を与えられるように対応する。また良好な関係性を構築するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の際に家族等が困っていることや不安な気持ちに共感、傾聴し、安心感を持って頂けるような関係作りを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学やインテークの際に現状のサービス状況を確認し、本人の状態確認に努め、同グループの施設等の選択肢も提示する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干しや調理活動など、生活の中での役割を見つけ、共同生活の中で利用者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への情報提供と行事や外出等の参加により、家族との良い関係性が築けるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の面会や、季節のお便り(暑中お見舞いや年賀状、お手紙)を出す取り組みをしている。	従前からのかかりつけ医が継続しているので、受診時に馴染みの方と会うこともある。知り合いの方が訪ねてくれたり、暑中見舞い葉書を手作りし、年賀状を出す支援を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係として関わりあえるように、お互いに良い関係性が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も要望等に応じて関わり、相談や困りごとの対応に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の意向を確認している。困難な場合は、ご家族と本人の意向を確認し、その人らしい生活を心がけている。	職員が利用者の担当制になっており、利用者の思いや意向は個別支援のなかで様子をみたり、聴いて把握し、思いに沿った支援をするように職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、在宅生活時のCMより、聞き取りし生活歴や暮らし方等を把握し少しでも在宅での生活や本人の習慣など馴染みの生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやケース記録を活用し職員間での情報共有に努めている。声かけや表情等観察し穏やかに過ごせるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から生活の課題や意向をアセスメントし、介護計画を作成する。月1回の会議及びCMと担当者とのモニタリングで計画内容やケアのあり方を話し合っている。	アセスメントをとり、介護支援専門員は担当する職員とともに介護計画を作成している。長期目標が1年、短期目標を6か月にして毎月モニタリングを実施し、6か月経過後ケアチェックをしてプランの見直しをしている。変更があれば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記載し職員間の情報共有と状態変化の気づきなどに活かし、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対して、柔軟な考えで問題を捉え、出来る限り解決へ向けて様々なアプローチに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会や近隣住民の交流、保育園、外部ボランティアなどの地域資源を活用し、楽しみのある生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医に受診・往診の継続ができるように支援している。	利用者全員が従前から診てもらっている医師を主治医としており、受診は家族がしている。受診時はホームの看護師が受診連絡票を作って家族に託し、医師と連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や体調の変化時には看護師に報告・相談し迅速な対応が受けられるように連携を図っている。受診には近状の様子を示した連絡シートを作成し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には病院との連携を図り、看護・介護サマリーを活用し情報の共有に努めている。入院中は状況確認のため訪問し担当看護師より情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態が変わった際など、家族との話し合いの場を多く持ち、家族の意向や今後の支援の方向性・出来る事・リスク等の確認、死への理解を家族もチームの一員として支援に取り組んでいる。	看取りの指針はあり、入居時に終末期についての意向を確認している。ADLが下がり、介護度が上がるなど状態が悪くなったら、医師・家族・職員・看護師を交え話し合いをしている。ホームでは医療行為や入浴が出来ないことなどの説明をして、家族の意向を踏まえ、利用者にとって最善の方法をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し職員が日々目の付くところに掲示している。また個々で異なる場合は個別で作成している。インシデント・アクシデントシートを活用し、事故の再発防止に努め、会議でも検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9/4に洪水を想定し避難訓練を実施し、外へ避難した。また地域の避難場所もマップで確認している。	災害に備え、ヘルメット・ライフジャケットを購入し、備蓄している。系列の特養”しおりの里”への避難も備えている。2019年9月に洪水を想定した避難訓練を実施し、課題も出ている。	災害はいくつかのパターンがあり、それぞれに沿ったわかりやすいチャート式のマニュアルの整備をして、防災訓練を実施するよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を理解し、人生の先輩であることを念頭におき、プライバシーへの配慮を怠らないように心がけている。	親しみから、なれあいの言葉にならぬよう、接遇の勉強で振り返っている。居室の入り口に、障子張りの中戸があって、プライバシーが保たれている。各居室にトイレ・洗面台が設備しており、他人の目を気にすることなく使える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけや話は分かりやすい言葉を使い本人が決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活パターンを理解し、日々保てるように支援している。余暇時間には何がしたいか、また好きなことや得意な事などその都度意向を聞き、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃り、おしゃれが好きな利用者は、化粧の仕方が分かるように支援している。季節に合った服装を促がしている。行事にはメイクやネイルなどおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは利用者の嗜好を確認し、季節の物、一緒に調理ができるものを考えている。日々の米研ぎや味噌汁作り、食器洗い、盛り付け等共に行っている。	日曜日を除き、調理は階下の通所介護の厨房で作っており、日曜日は職員による献立で調理している。ホットプレートを使ったメニューも考慮している。母の日・父の日は特に豪華な献立で提供している。9人が一つのテーブルで互いの顔が見える食卓になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し管理している。異常時には看護師・管理栄養士と相談し栄養補助食品を活用している。疾患により、水分制限や食事制限など対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけをし口腔内の清潔を維持できるように支援する。誤嚥のリスクやうがいが多い場合は口腔ウエットティを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員間で共有し、利用者によって声かけや誘導をしている。失禁を減らすことで自信につながり安心して生活が送れるように支援している。	布パンツ・リハビリパンツやパットを使っているが、トイレが各居室に配備されているので、全員いつでもゆっくりと他者の目を気にせず排泄ができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促がしや散歩などの運動・乳製品の活用で出来る限り自然排便を促がしている。困難な場合は服薬によりコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に5日の入浴日を設け、体調や希望に応じて入浴している。入浴剤や声かけにより安心して気分良く入浴できるようにしており、季節に合わせてゆず・りんご・菖蒲など季節感も楽しんでいる。	週5日、午後2時半から3時半の時間帯に入浴をしている。浴槽は向かい合って2つあり、両方とも使えるので2人が向かい合って入浴することもある。好みの入浴剤を使い、季節にはゆずやりんご・バラ・菖蒲などを入れて香りも楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調面に考慮し個室で休息している。ホールではソファを設置し、いつでもゆったりできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による服薬管理で、状態の変化時などに主治医と相談し確認している。飲み忘れなどないように服薬表で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと・好きなことを把握し、食事準備や盛り付け、タオルたたみ、ゴミ捨て、台拭きなど無理のないように役割を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候に応じて近所への散歩や外出行事で市内の散策など行っている。また、家族と食事に出かける利用者もいる。	気候・気温・利用者の状態に応じて散歩に出かけている。近くのお地藏さんへのお参りは散歩に最適な距離である。1月は結城神社への初詣、4月いちご狩り、11月紅葉狩り、回転ずしに出掛け楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は担当職員が対応している。希望時には職員と一緒にスーパーまで買い物に行き購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月のお便りに本人が書いた手紙を同封したり、暑中見舞いや年賀状、家族とのやり取りが出来るように支援を行なっている。知人や家族から入電の時には、話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度管理や清掃活動を行い清潔感ある空間を提供している。季節の飾りつけや花など季節感を感じて頂けるようにしている。	2階なので陽光が入り明るく、天井が高く、食堂・廊下は広いスペースである。気になる臭いはしない。季節感を表す大きなはり絵が温かい雰囲気を醸している。写真が目につく所に貼ってあり、家族からも喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースやソファを設置しくつろげるスペースを確保している。窓際は日当たりも良く座椅子で日光浴をする姿もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスの配置は本人や家族と相談し設置している。家族との写真をはったり、在宅で使用していた物や飾りを置き安心感が得られ、居心地良く過ごせる空間を作っている。	各居室は、入り口と窓際に障子戸があり、温かみを感じる。ペット・エアコン・大小のタンスは設備してある。人形や写真など処狭く飾られている方やシンプルな設えの方もあり、それぞれの自分らしい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる、わかることが維持・継続できるように職員間で情報を共有し残存機能の活用ができるよう支援している。名前や標語の張り紙をし分かりやすくしている。		